

狸利用

〔延喜式二十民部十三〕交易雜物

太宰府（中略）狸皮十張

〔延喜式三十七典藥〕諸國進年料雜藥

太宰府十二種（中略）狸骨二具

〔續修東大寺正倉院文書三十一〕食堂所解 申可請七月糧點加仕丁事（天平寶字三年六月二十八日）

紙背二 錢五貫七百廿三文（中略） 十文題料狸毛筆一管直

〔性靈集四〕奉獻筆表一首

狸毛筆タグフデ四管クワン草書一ツ行書一ツ寫書一ツ（中略）

弘仁三年六月七日 沙門空海進

〔屠龍工隨筆〕狸を汁にて煮て喰ふには、其肉を入れぬ先鍋に油を引て、いりて後、牛房蘿蔔など入

て煮たるがよしと人のいへり、されば菟蕪などをあぶらにていためて、ごぼう大こんとまじへ

て煮るを名付て狸汁といふなり、

〔倭訓栞前編十四〕たぬき（中略） 狸の腹つゝみといふは、げに其音鼓のごとし、

〔夫木和歌抄二十七〕十題百首 寂蓮法師

人すまでかねも音せぬ古寺にたぬきのみこそつゝみうちけれ

狸腹鼓